平成30年度　第58回全国審判講習会報告書

北支部　藤井　義文

◆開催日時　　平成30年5月12日（土）～13日（日）

◆会　　場　　兵庫県　阪神甲子園球場

◆主　　催　　日本高等学校野球連盟、朝日新聞社、毎日新聞社

◆受 講 者　　48名（46都府県より各1名。北海道は2名。）

◆講習内容　　別紙のとおり

　　　　　　　講習1日目：予定通り進行

　　　　　　　講習2日目：当初予定から前日に予定変更

　　　　　　　　　　　　　当日9時過ぎより雨天のため室内で講習（再変更）

◆講習内容に関する報告事項

**＜窪田審判規則委員長より審判委員の皆さんへ＞**

・全国審判講習会も58回目の開催となった。目的は、約4,000試合行われる

各地区大会1回戦から甲子園大会の決勝戦まで、全国で同じように判定され

試合が進行されることである。そして、みんなで記念すべき選手権100回

大会を成功させましょう。

・ついては、2つのことを皆さんにお願いいたします。

①プレイの説明は「分かりやすい言葉」で「簡潔」に。

　　　球場にはたくさんの方々がいらっしゃる。難しいプレイが発生した場合、

　　　積極的にプレイを説明して欲しい。その際、一般の方々も分かる言葉で

　　　簡潔に説明できるよう準備をして下さい。

　　　（例：インターフェアでランナーアウト・・・ではなく、ランナーが

　　　守備を妨害したのでアウト・・・のように。）

　②判定する＝this timeで。

　　　正しい判定、正確な判定でもタイミングを逃すと意味がない。

　　　プレイが起きた「その瞬間」に正確な判定ができるよう訓練して下さい。

　　　（確認事項を怠れということではありません。）

＜講習の報告事項＞

【講習1日目】

○フォーメーションのイメージトレーニング（古川講師）

　・せっかくの機会なので、「初心に帰って」二日間講習して下さい。

　・日頃慣れた球場でも、天候や風向きは日々違う。まず、試合に臨む前に

　　準備をしっかりして下さい。（情報収集して下さい。）

　・その後、各塁を回り歩きながらイメージトレーニングをしました。

○ジェスチャーの練習（尾崎講師）

　・大きな声を出すよう指導がありました。併せて、ジャッジも大きく。

　・タイムのジェスチャーは、両手をまっすぐ上に上げる。（基本に戻る。）

　・甲子園球場のアルプススタンド、外野スタンドの最上席に講師を立たせて

　　発生した声が聞こえるか実験した。

　　そこに届く声と見えるジェスチャーを意識するように指導いただきました。

○球審の基本動作の説明、投球判定練習（堅田講師）

　・捕手に近すぎる人が多い。ヒールトゥヒールトゥを意識して下さい。

　　試合では捕手が動くので距離を保つ。

　・投球に対して、早めに「セット」を取り、待ち受ける。

○フォースプレイの説明、判定練習（野口講師）

　・フォースプレイの基本は、以下のとおり。

　　①止まって判定する②プレイを正面におく③待ち受ける④判定を急がない。

　・プレイの状況で、立つ位置は変化する。常にいい位置を考え準備する。

○盗塁の判定練習（大槻講師）

　・判定ポイントまで「早く」移動する。

　・ステップは「2歩」でも「4歩」でも構わない。大事なことは、フォース

　　プレイ同様に止まって判定する。

　・1塁、3塁で「2塁塁審」が外に位置した場合。2塁ベースから離れ過ぎる

と盗塁が見えないので、余り離れず、捕手の送球に対応した位置を取る。

○打球に対する反応と判定練習、フォーメーションの練習（西貝講師）

　・打球も止まって判定する。1塁、3塁塁審のゴロ判定は、素早く判断し

　　ジャッジする。

　・二死一塁3ボール2ストライク時は「球審ステイ」でも良い。

（新しいフォーメーション。塁審と連携をしっかり取る。）

・外審の位置取りと、動き方も練習しました。

・判定する場所に早く移動して、プレイを待ち受ける。

○閑話、平成30年度規則改正等変更点の説明

　・元高野連理事で審判委員を務められた清澤忠彦氏より、お話がありました。

　　先輩の審判委員より「審判はグランドで歩かない」「選手をダラダラさせ

　　ない」という指導をされたそうです。

　・窪田審判規則委員長より「重点指導事項」と「規則改正」について、お話がありました。

　　「重点指導事項」：①正しい投球動作②正しい捕手の位置③正しい走塁を

　　　　　　　　　　　しっかり指導して下さい。

　　「規則改正」：タイブレイクが導入されたので、準備をして下さい。

　　　　　　　　　ランナーを塁に付かせるタイミングは、捕手の二塁送球後。

　　　　　　　　　様々な場面を想定して模擬試合をしたが、そんなに混乱は

　　　　　　　　　なかった。

【講習2日目】

○フォーメーションのイメージトレーニング（長谷川講師）

　・前日は「無走者」を想定したイメージトレーニングが多かった。

　　2日目は、「走者1塁、2塁」「走者2塁」「本塁周辺」のイメージトレーニ

ングを行った。

　・2塁塁審がフィールド内に位置した場合の「スライド」、1塁塁審の「リミング」は、いずれも中間地点まで素早く行くよう指導がありました。

（そこから、プレイの起きる場所に移動して待ち構える。）

（雨天のため、室内へ移動）

○準備体操、発声練習

　・理学療養士の指導で、準備運動を行いました。

○投球判定練習

　・前日の指導をふまえ、投球判定の練習をしました。

○ランダウンプレイの判定練習（三宅講師）

　・3塁、本塁間のランダウンプレイを想定。併せて、2塁ランナーも付けて

　　3塁ベース上に2走者が立った場合の対応法を指導いただきました。

・2走者がアウトにならないよう、占有権ある走者に「セーフ」その後に

　占有権ない走者に「アウト」と宣告する。

・ランダウンプレイの準備は4項目。「守備妨害」「走塁妨害」「ラインアウト」

　「ノータッグ」。

・各審判の責任範囲は「塁間の半分」。

　・タッグが起きる際、しっかり「タッグ確認」に行く。

　・ベース周辺の「ノータッグ」は声だけにする。

○本塁周辺の説明（戸塚講師、田中講師）

　・捕邪飛の際、捕手と接触しないように捕手の動きをよく見る。打球がフェンス周辺に飛んだ場合は、先にフェンスに付き捕手を横におくような形で判定する。

　・本塁クロスプレイの判定位置は、ホームベースの真後ろ（キャッチャーボックス内）でプレイを見守り、送球の来る場所により位置を決める。

単純に3塁、本塁間の延長には入らない。（高校野球特別規則により捕手が

足をおける位置がベース後方にもあるため。）

　・フォースプレイは角度を取り判定。

○投手の投球、送球に関する説明（宅間講師）

　・ルールの変更はない。（高校野球特別規則のとおり。）

　・重点指導事項にある「正しい投球動作」を身に付けてもらうよう、練習試合から徹底して下さい。

＜所感＞

　この度は、新潟県高野連の皆様・審判部の皆様より貴重な機会をいただきま

して、誠にありがとうございました。

　高校時代に出場がかなわなかった「甲子園球場」は、想像を超える素晴らしいグランドでした。

　今回の講習会で、一番使用された言葉は「準備」であったと思います。試合を迎えるにあたっての準備、球場での準備、試合中の準備、次の試合に向けての準備と常にそれを怠らない心構えを指導していただきました。

　また、今回は「基本」を重視した講習会でした。四人制のフォーメーション、ジェスチャーなど、私も初心に帰り謙虚さを忘れず試合に臨みたいと思います。

「規則を知る」「いい位置取りをする」「プレイの情報を集める」ことを怠らず、今後も精進したいと思います。

　最後に2日目が雨で室内での講習になったため、モデル校の高校生が少し

審判にチャレンジしておりました。新潟県でも若い人たちが審判に興味を持っていただけるよう、「厳しい」なかでの「やりがい・楽しさ」を伝えたいと思いました。